

資料 6

上野山構成員提出資料

AI化する近未来から眺める デジタル公共インフラの俯瞰図

来たるべき AI 時代に向けての「デジタル公共財の確保」の重要性: ~5レイヤーの競争の先に... ~

- 近未来、5階層に重なるグローバルサプライチェーンが形成される中での“戦略的陣取りゲーム”が開始されている:
 - ~ 5本指のメタファー(直感的理解の為の俯瞰図): 何処を? 何故? 守る必要があるか? ~
 1. “小指”: 市民: 日本国民
 2. “薬指”: アプリケーション(含 デジタル行政サービス) + 法律 : 海外+国内企業
 3. “中指”: AI 基盤モデル (含 データ): 海外+国内企業(国産 LLM 等)
 4. “人差し指”: 半導体バリューチェーン → データセンター:
 - 現在複数レイヤーでシェアトップ(重要)
 5. “親指”: 発電 / エネルギー: グリーンエネルギー 等
- 国内に根ざした企業の存在が経済面のみならず安全保障・市民社会の幸福に於いても鍵
 - 避けるべきシナリオ:
 - 1) 行政サービス含め、市民接点(薬指)の Controllability を国として失う事
 - 2) 医療データを集めたが、海外AIで付加価値を失う
 - 半導体の一部領域、良いデータはある、ロボット/ハードなどの強みを活かす

↓

日本の立ち位置を活かし、他国を巻き込みながら、戦略的にポジショニング / 国際協調すべき

- ASEAN/グローバルサウス含めパートナー企業を産業として各レイヤーに戦略的に巻き込むことによる国際協調。日本の地政学的ポジショニングを最大に活かすべき

↓

その実現手段としての、「データ利活用の戦略的な仕組み / 法的強化」が重要

- 現状の AI 周りの法制度整備により、AI 企業・ビッグテックからの投資を呼び込む(継続)
- 二次利用・公共財としてのデータの利活用を促す法整備の促進(共有と非共有のバランス)

以上